

## お薦めサイト

**① ルアンナムタ**  
多様な山岳少数民族が伝統的な文化を守って共存する。

**② ルアンパバーン**  
14世紀建国のラーンサーン王国の首都で伝統文化の中心。1995年に世界文化遺産に登録される。

**③ シエンクアン**  
先史時代の巨石文化がジャール平原に点在する。16世紀には仏教芸術が開花した。

**④ フアパン**  
ジャール平原に先行する先史時代の遺跡、少数民族の文化が残る。

**⑤ ピエンチャン**  
1560年ラーンサーン王国の首都となる。コロニアル風の町並みと伝統様式の寺院が調和。

**⑥ カムアン**  
ラーンサーン王国以前の10世紀頃まで、シコタボーン王国がセバンファイ川に都を構えていた。



**⑦ サワナケート**  
ラオス中部は稲作に適し、古くから集落が発展し、仏教と仏塔崇拝が盛ん。

**⑧ チャンパサック**  
かつてクメール文明に属し、世界文化遺産のワットプーとクメール遺跡群を有する。

## 旅の基本情報

正式国名：ラオス人民民主共和国  
(Lao People's Democratic Republic)

面積： 約23.7万平方キロメートル (ほぼ日本の本州の広さ)

人口： 約626万人(2010年推計値)

首都： ピエンチャン

気候： 熱帯モンスーン気候

緑の季節(5月～10月)、爽やかな季節(11月～4月)

民族： ラオ族を含む49民族

宗教： 仏教(国民の約67%)、精霊信仰など

公用語： ラオ語

使用言語： ラオ語、タイ語、英語、フランス語など

時差： 国際標準時 + 7 時間 (日本から 2 時間遅れ)

通貨： キープ(Kip)

電圧： 220V/50Hz

通信： 主要都市では電話、携帯電話、インターネット可

ビザ： すべての国際空港と国際国境で入国時にアライバルビザ取得可 (日本国籍で15日間以内の観光はビザ不要)

空路入国： 国際空港(4ヶ所)：ピエンチャン(VTE)、ルアンパバーン(LQP)、サワナケート(SVK)、パクセ(PKZ)  
バンコク、ハノイ、シンガポール経由ほか

陸路入国： タイ、ベトナム、中国、カンボジア (計17ヶ所)

(2011年11月現在)

詳細については

[www.lao.jp](http://www.lao.jp) (日本語)

[www.tourismlaos.org](http://www.tourismlaos.org) (英語)

[www.ecotourismlaos.com](http://www.ecotourismlaos.com) (英語)

[www.facebook.com/visitlaos.jp](http://www.facebook.com/visitlaos.jp)

Visit Laos Year 2012 (JP) (日本語)

ラオス情報文化観光省  
観光マーケティング・プロモーション局

P.O. Box 3556, Lane Xang Avenue, Vientiane, Lao PDR



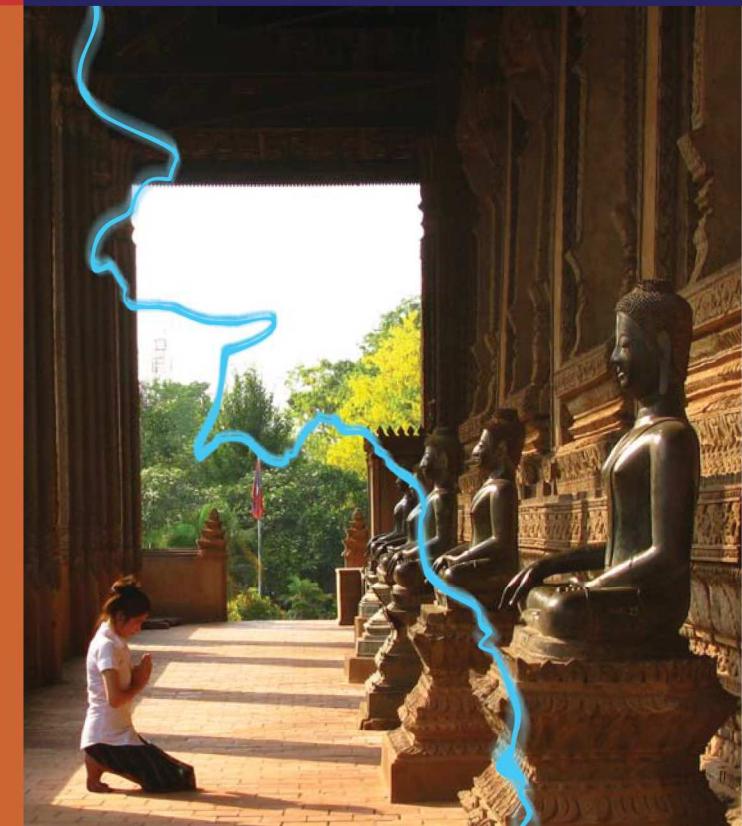
Think World Think Tomorrow

2011年12月



# 文化と文化財

ມໍລະດົກ ແລະ ວັດທະນະທຳ





# 文化と文化財

ມີລະດົກ ແລະ ວັດທະນະທຳ

多様な文化が融合し、幾多の文化財が全国各地に残る。

ラオスは49の民族からなり、その文化や文化財は多様だ。インドシナ半島には数千年前から人類が住み着き、北東部には先史時代の遺跡もある。

だが、ラオスをラオスたらしめているのは、派生の民族も含むラオ族の存在だ。ラオ族はアルタイ山系を起源とし、紀元前後から現在の中国雲南省を経て徐々に南下し、ムアンと呼ばれる集落を構成しながら、14世紀には現在のラオスの版図にラーンサーン王国を築いた。中国では明朝の少し前、欧州ではルネッサンスが始まる時代だ。その間、起源を同じくするタイ族、南のクメールとの勢力争いや共存共栄の絵巻物が繰り広げられた。ラオ族の王もクメール帝国で学んだ。

ラオスを語る際、鍵となるのはこの地域を結ぶ動脈であったメコンだ。水運は文化、ヒンズーや仏教を伝え広めた。豊かな水は農耕文化を育み、自然に対する畏敬の念から発したアニミズムはヒンズーや仏教にも溶け込んだ。一方で、高原や丘陵地帯に暮らす少数民族とは平和共存し、それぞれの文化を尊重しあっててきた。今日見られる多様で豊かな文化や文化財は、これらの長い民族史の産物だ。

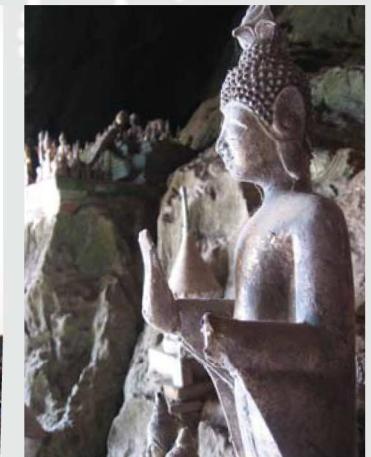


1		
2	3	
4	5	

1. ルアンパバーン様式と呼ばれる優美なシェイプを持つ古刹ワット・シエントーン。  
(ルアンパバーン)

2. 仏塔信仰は連綿と続いてきた。タートルアンはラオス最大の仏塔。  
(ビエンチャン)

3. 幾千もの仏像が安置されたメコン河畔のパクウー洞窟には参拝者が絶えない。  
(ルアンパバーン)



4. クメール時代、ヒンズー寺院として山の中腹に建立されたワット・プー。巨大な人造池、バライは今も水を湛える。  
(チャンパサック)

5. 49の民族が共存するラオス。それぞれの衣装は民族のアイデンティティ。

6. ジャール平原の謎に包まれた石壺。巨石文化の遺構。  
(シェンケアン)

(表紙)古くから仏教文化が花開いたラオスでは、今も日々祈りが捧げられる。  
(ビエンチャン)